

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Hazardous alcohol drinking and premature mortality in Russia: a population based case-control study. ロシアにおける危険な飲酒と早期死亡率の関連について：一般住民における症例対照研究	
執筆者	
Leon DA, Saburova L, Tomkins S, Andreev E, Kiryanov N, McKee M, Shkolnikov VM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Lancet. 2007 Jun 16;369(9578):2001-9.	
キーワード	
ロシア、飲酒、早期死亡率、一般住民、症例対照研究	
要 旨	
<p>目的： ロシア人男性の余命が短く死亡率が大きく変動する理由はよく理解されていない。典型的なロシアの都市において飲酒、特に危険な飲酒が男性の死亡率に及ぼす影響を明らかにする</p> <p>方法： 25 - 54 歳の Izhevsk の居住者で 2003 年 10 月 20 日から 2005 年 10 月 3 日の間の全死亡者を症例とした。対照は住民より死亡者の年齢頻度にあわせて無作為抽出した。死亡者の同居家族に生活様式に関する質問を 2003 年 12 月 11 日から 2005 年 11 月 16 日の間に行った。症例の 62%(1750/2835)と対象の 57%(1750/3078)から回答を得た。ビール、ワイン、蒸留酒の摂取頻度と通常量、通常飲用ではないエタノールを材料とした液体 (非飲用アルコール) の摂取頻度、問題飲酒の指標を確認した。症例 1468 人と対照 1496 人の問題飲酒の指標、飲酒の頻度、教育歴、喫煙に関する情報を取得できた。</p> <p>結果： 死亡症例の 751 人(51%)が問題飲酒者もしくは非飲用アルコール摂取者と分類された。対照では問題飲酒者もしくは非飲用アルコール摂取者は 192 人(13%)であった。男性の死亡オッズ比 (OR)は禁酒者もしくは問題のない飲酒者と比較すると喫煙および教育歴を調整すると 6.0(95%信頼区間(95%CI):5.0-7.3)倍であった。過去に非飲用アルコールを摂取していた者の死亡 OR は年齢を調整すると 9.2(95%CI:7.2-11.7)倍であった。アルコール摂取量を調整すると OR は 8.3(95%CI:6.5-10.7)に低下するが、教育歴と喫煙を調整すると 7.0(95%CI:5.5-9.0)にさらに低下した。非飲用アルコールの摂取頻度はアルコール飲酒量と独立して死亡率と強い関連を認めた。教育歴や喫煙を調整すると死亡率の 43%は危険な飲酒 (問題飲酒や非飲用アルコール摂取や両者) により説明された。</p> <p>結論： 典型的なロシアの都市において壮年男性死亡の半数は危険な飲酒が原因であった。今回の研究は 1990 年代初頭のロシアにみられた急峻な死亡率の変動が非飲用アルコールの摂取に示されるような危険な飲酒と関連があるという論議を支持する結果であった。</p>	